

海員春闘 [中央交渉] 日本カーフェリー交渉委員会
第1回目からこれまでの経過

第1回交渉 3月2日

日本カーフェリー労務協会との第1回交渉は、13時30分から開催した。労使双方の交渉委員を確認した後、船団側を代表し猪飼康之会長、組合側を代表し松浦満晴組合長がそれぞれあいさつを行った。

続いて交渉委員会運営を確認した後、組合側から要求の趣旨説明を、船団側から船団側申し入れ事項の趣旨説明を行った。

引き続き、日本カーフェリー労務協会の構成会社の確認を行った後、「有効期間」については労使双方の申し入れ事項であることから、仮合意とした。

交渉では組合側から、期限内自主円満解決に対する考え方について質したところ、船団側は異論ないとの考えを示した。また、組合要求については、真摯に検討して対応したいとした。

第2回交渉 3月9日

3月9日の13時40分から、海員組合本部地下大会議室で開催、第1回交渉で仮合意した「有効期間」を除く組合要求について逐条審議を行った。

船団側は、組合要求の基本給について賃金改善の必要性は理解しているものの、物価高騰の影響からドック費用や船用費などが上がっていることに加え、原油価格の高騰を勘案すれば真摯に検討しているが、本日時点で具体的な回答を行うことは難しいとした。

これに対し組合側は、陸上諸産業を含め昨年以上に、賃上げに向けた機運が高まっており、他産業との人材確保競争の観点からも大幅な賃金改善は必要であるとし、原油価格についても一過性であると考えておりベースアップとは切り離すべきであると指摘し、前進した考え方を示すように求めた。

艀装員手当については、各社の考え方がまとまっておらず、本日時点では回答が難しいとした。また、宿泊料については要求趣旨は理解しているものの、支給基準を超えた場合に実費支給しているので、文言は追加せず運用で十分ではないかとの回答を示した。

第3回交渉は3月16日に開催、第4回交渉を3月23日に開催するも議論は平行線をたどり、船団側に解決に向けた内部検討を求め中断中。

「海員だより」